

再評価対象事業

農山漁村地域整備交付金事業
森林管理道 琴南財田線

環境森林部 みどり整備課

1. 事業概要 (位置図)

○事業の経緯

平成 2年度: 森林基幹道として工事に着手
 平成17年度: 「財政再建方策」に基づき一時休止
 平成18年度~: 路線の分割や幅員の縮減など整備手法の見直しを行い、森林管理道として優先する路線から工事再開



2. 事業概要（林道の役割）

① 森林の持つ多面的な機能

○土砂災害防止／土壌保全
 ・表面侵食防止
 ・表層崩壊防止 等

○水源かん養
 ・洪水緩和
 ・水資源貯留 等

○保健・レクリエーション
 ・保養
 ・レクリエーション 等

○物質生産
 ・木材
 ・食料(きのこ) 等

ほか、生物多様性保全、地球環境保全等の機能があるとされている。

③ 路網の整備による森林整備の効率化

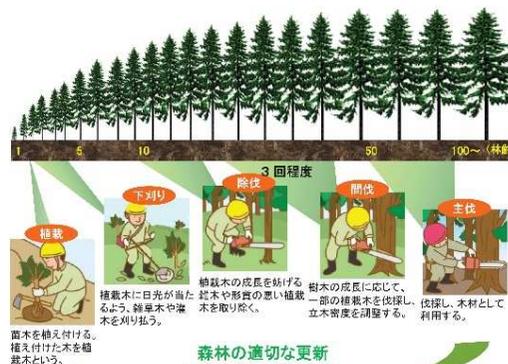
森林整備や間伐材の搬出を効率的に行うために林道（森林管理道）や森林作業道等の路網の整備が重要



② 森林整備の必要性

森林の多面的な機能を発揮するために、植栽、保育、間伐等の森林整備を適切に行うことが必要。

■ 森林整備(イメージ)



間伐の重要性

- ・残存木の成長や根の発達を促され、風雪害に強い森林に
- ・林内の光環境が改善し、下層植生が繁茂することで、表土の流出を防ぐ
- ・様々な動植物の生息・生育が可能になり、種の多様性が向上
- ・病虫害に対する抵抗性が向上 ほか



間伐が遅れた人工林のイメージ



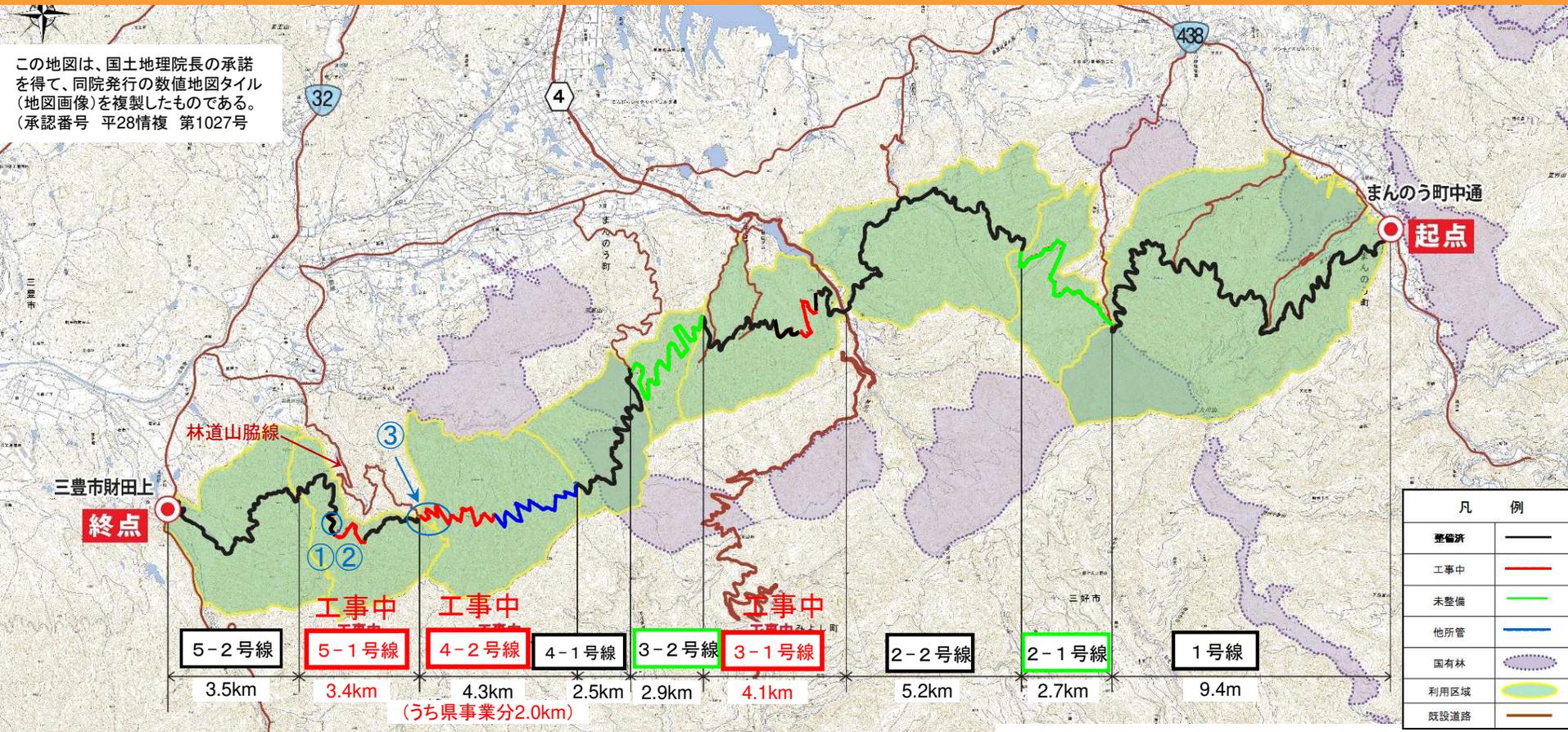
適切に管理された人工林のイメージ

④ 利用区域内の森林の状況

区分	路線名	利用区域内森林面積			森林整備実績	
		民有林 (A) ha	うちスギ・ヒノキ林 (B) ha	スギ・ヒノキ林率 ((B)/(A))	H18～H30 整備面積 (C) ha	搬出材積 m ³
工事中	3-1号線	220	70	32%	68	0
	4-2号線	150	28	19%	10	0
	5-1号線	176	71	40%	42	584
整備済	1号線	648	210	32%	91	50
	2-2号線	346	239	69%	195	274
	4-1号線	34	8	24%	8	0
	5-2号線	288	48	17%	7	0
未整備	2-1号線	188	44	23%	2	0
	3-2号線	87	15	17%	48	18
計		2,317	733	32%	471	908
県全体		79,306	13,115	17%	3,557	45,656

3. 事業概要 (整備状況)

この地図は、国土地理院長の承諾を得て、同院発行の数値地図タイル(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平28情複 第1027号)



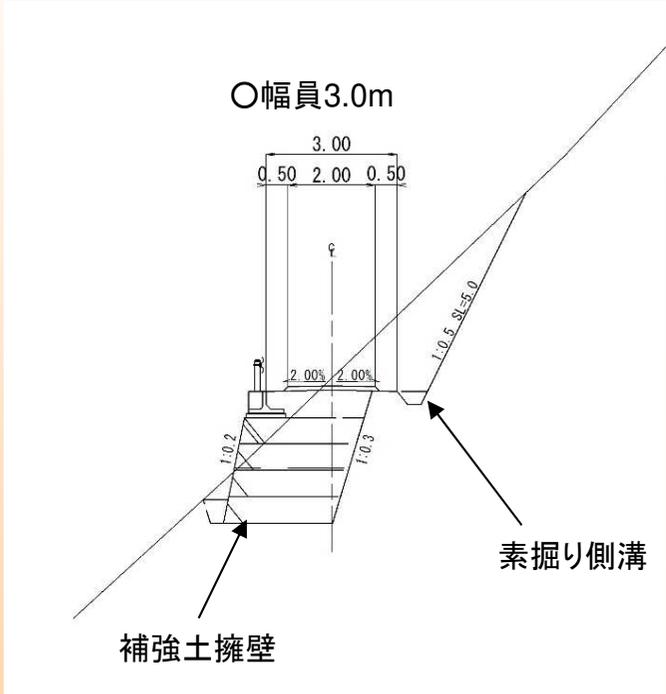
区分	路線名	全体計画			平成30年度末までの実績		
		延長 (km)	事業費 (百万円)	計画期間	延長 (km)	事業費 (百万円)	進捗率 (%)
工事中	3-1号線	4.1	1,567	H12~R2	3.5	1,526	97%
	4-2号線	2.0	230	H28~R7	0.3	72	31%
	5-1号線	3.4	967	H18~R2	2.6	744	77%
整備済	1号線	9.4	3,603	H2~H27	9.4	3,603	100%
	2-2号線	5.2	1,914	H2~H17	5.2	1,914	100%
	4-1号線	2.5	522	H2~H17	2.5	522	100%
	5-2号線	3.5	936	H2~H17	3.5	936	100%
未整備	2-1号線	2.7	464	(R3~R12)	—	—	—
	3-2号線	2.9	472	(R3~R12)	—	—	—
計		35.6	10,675		27.0	9,317	87%

- 1) 整備状況 (平成18年度計画見直し後)
- ・1号線、5-1号線の2路線の工事を実施
 - ・平成21年度に3-1号線の工事を再開
 - ・平成27年度に1号線が完成
 - ・平成28年度に4-2号線に着手

進捗率 87%(工事費ベース)

4. 事業概要（整備状況及び活用状況）

○標準断面図(4-2号線)



○森林整備実施状況



写真③ 琴南財田線と既設林道、森林作業道との連携

5. 対応方針（案）

1. 再評価の視点

①事業の必要性等に関する視点

1) 事業を巡る社会情勢等の変化

- ・利用区域内の人工林(スギ・ヒノキ林)約730haのうち約430haが収穫できる林齢を迎え、搬出間伐など木材の搬出・利用を促進する必要が高まっている。
- ・県産木材を中心に製材・加工する「かがわ木材加工センター」が本格稼働するなど、搬出された間伐材の受け入れ態勢が整備された。
- ・利用区域内森林の50%強を保安林が占めており、水源かん養や土砂災害防止機能などのため、森林整備・保全を推進する必要がある。

2) 事業の投資効果

- ・費用便益比(B/C) 3-1号線:1.10 (H26再評価時) 5-1号線:1.30 (H26再評価時)
4-2号線:1.05 (着手時)

3) 事業の進捗状況

- ・全体計画延長35.6kmのうち27.0kmが完了し、工事費ベースで87%が完了している。

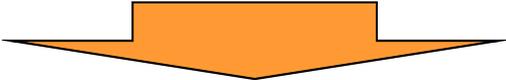
②事業の進捗の見込みの視点

- ・現在工事を行っている3路線のうち2路線が令和2年度で完成の見込みである。
- ・地元関係者も早期完成を要望しており、事業は円滑に進捗する見込みである。

③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・利用状況に応じた経済的かつ効果的な線形の変更や工法を採用するとともに、新工法等にも対応し、コスト縮減に努める。

2. 対応方針（案）



以上のことから、**事業を継続する**